

平成26年10月7日(火)

老球の細道69号

『人生はゲームだ』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

9月にスペインで行われた男子ワールドカップ(世界選手権)、10月にトルコで行われた女子世界選手権共にアメリカが圧倒的な力で優勝した。

男女共にアメリカはNBA, WNBAのプロ選手で構成されていたが、なぜかヘッドコーチは大学のヘッドコーチであった。男子はデューク大学のコーチ・Kことマイク・シャシェフスキー、女子はコネチカット大学のジーノ・オーリエンマ。いずれもアメリカ大学の超カリスマコーチである。

二人のコーチの素晴らしかったところは、百戦錬磨のプロ選手たちを短期間でチームとしてまとめ上げ、最も泥臭いディフェンスとリバウンドに体を張ってがんばるチームに育て上げたことである。ベンチでコーチの話を聞く姿勢を見ると、全員がコーチの話にうなずきながら真剣な表情で聞き入っている。その姿は日本の高校生以上に健気であった。そして、そのような選手達がコートに戻ると野獣のように強い。

改めて、バスケットボールにおいてコーチの影響力の大きさを思い知らされた。試合前やタイムアウトなどでベンチで話をする二人のコーチの姿は政治家であり、哲学者であり、宗教の伝道師を彷彿させた。このような話に導かれてアメリカの選手たちは一生懸命にプレーをする。

コーチの神様、ジョン・ウッデンは「指導者とは人々に意欲を起こさせるために銃を必要としない人のことである」と言った。何で動かしているのか。言葉の力だろうと思う。たくさんの琴線に触れる言葉の引き出しを持っているのだろう。それらの言葉と人格で選手からリスペクトされ、選手たちを全力で戦う集団に変えてしまう。

以下はジョンウッデンの選手たちに向けた「人生はゲームだ」という詩である。コーチは詩人にもならなければならない。世界の名コーチは皆詩人である。

これは君に最初の試合だ。君が勝つことを私は期待している。

それは君のためだ。私のためではない。

なぜって、勝つことは素晴らしいことだからだよ。

勝つことは気分がよい。

全世界が自分のものになったような気分になる。

でも、その気分はすぐに消える。

あとに残ったものが、君の学んだことだ。

君が学ぶのは人生だ。それがスポーツのすべてさ。

君の人生の幸せ、惨めさ、喜び、失望感を学ぶのだ。

何が起こるかは、わからない。

五分で引っ込められるか、あるいは長丁場を経験させられるかは、わからない。

君がどういう活躍をするかは、わからない。

ヒーローになるかもしれないし、影の薄い存在になるかもしれない。まったくわからない。

あまりにも多くのことが偶然だ。

ボールがどうバウンドするかで明暗が分かれるのだから。

ゲームのことだけを言っているのではない。

人生について言っているんだ。

しかし、ゲームというのは人生だからね。
すべてのゲームは人生だ。
そして、人生はゲームなのだ。
真剣なゲーム。とても真剣な。

真剣なことをするとき、君はベストを尽くす。
何が来ても、それを受けて立つ。
そして、それを乗り越える。
勝つことは楽しい。それは確かだ。
しかし、勝つことが大切なのではない。

勝ちたいと思うことが大切なんだ。
あきらめないことが大切なんだ。
自分がしたことに絶対に満足しないことが大切なんだ。
気を抜かないことが大切なんだ。
自分に期待している人をがっかりさせないことが大切なんだ。

勝つためにプレーする。もちろんそうだ。
でも、負けるときはチャンピオンのように負けろ。
大切なのは勝つことじゃない。
大切なのは挑戦することだ。

・・・元UCLAバスケットボールコーチ・ジョン・ウッデン〈育てる技術〉より・・・